

会 議 録

会議名 (審議会等名)		市民大学「あじさい大学コース」検討委員会（令和6年度第2回）		
事務局 (担当課)		高齢・障害者福祉課 電話042-769-8354（直通）		
開催日時		令和6年10月16（水）午前10時00分～午前11時30分		
開催場所		市民会館2階 第2大会議室		
出席者	委員	8人（別紙のとおり）		
	その他	0人		
	事務局	5人（高齢・障害者福祉課長、他4人）		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 あいさつ 2 議題 （1）今後のあじさい大学コースのあり方及び講座案について ア あじさい大学コースに係る意見・要望について イ 今後のあじさい大学コースのあり方(案)について ウ 令和7年度以降の講座案について （2）その他		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 あいさつ

(小林委員長)

ニュースの名物キャスターの久米宏さんは、視聴率が低迷していた際にスタッフに求めたことは、“内輪の事情ばかり考えず、街を歩くこと”と語っている。

“迷ったときは、現場の現実にあたり直す”これは、為政者としての一番素朴な姿であり、常道であると私は思っている。

本日の資料を拝見すると、先ほど事務局からの挨拶にもあったが、前回の検討委員会の意見を基に文化協会、体操協会を始め、青山学院大学の指導者の方々、県太極拳やバウンドテニス協会の方々等、多岐に渡って地道に御意見をいただき、本日の講座内容を御提案いただいている。

事務局職員の真摯な姿勢に敬意を表す。

本日は、確かな視点に基づいた貴重な提案を検討委員会で御精査の上、さらに磨きをかけていただきたく、協議を深めたいと思う。

2 議題

(1) 今後のあじさい大学コースのあり方及び講座案について

「資料1」により事務局から説明を行い、意見交換を行った。

(小野委員)

7ページの年間の講座の講座数について、スポーツ系が1講座というところは少し寂しく感じる。バランス的なところはどうか。きっかけづくりということであれば、生涯スポーツ講座として、全6回であれば3種目を2回ずつ体験する等の形も考えられる。また、文化系についても同様に考える。

(事務局)

きっかけづくりとして、まずは、出来るだけ多くの方に参加いただくということを主眼として置いている。これまでの申込状況からスポーツ系の講座の申込倍率が低いため、スポーツ系の講座は年1講座で令和7から9年度まで実施する。実施期間中にスポーツ系講座に参加した方にどのような種目を希望するかアンケートで伺い、その結果を踏まえ翌年度以降の講座内容を検討していきたい。

(小野委員)

申し込み状況から検討したということであるが、スポーツは非常に種目が

多く、例えばゴルフとつくものについては、現在市スポーツ協会には加盟団体が4つあり、ゴルフ、パークゴルフ、ターゲットバードゴルフ、グラウンド・ゴルフがある。受講者としては示された種目しかないため、広い視点での選定を今後検討いただきたい。

(堤委員)

私的な意見であるが、私は東京の方で社交ダンスを教えている。フラダンスは参加者の多くが女性であるが、社交ダンスは今、これからやりたいという高齢者の方がとても多く、男女の参加となっている。今後、高齢者の受けを考えた検討をしてほしいという意見である。また、講座案でヨガとフラダンスが交互になっているため、その枠で社交ダンスを組み込むこともよいのではと考える。

(事務局)

市文化協会からも社交ダンスの開催検討について御意見をいただいたため、検討を進めていきたい。

(池田委員)

社交ダンスといっても何種類かある。市文化協会にも多くの団体がある。各団体に加入されている方は100名程度おり、フラダンスだと600名程度いる。それらに所属する方があじさい大学で受講するのか。すでに講師がついているので、どうなのかと考える。団体には協力していただけるだろうし、きっかけづくりとしては良いかと思うが。

(大神田副委員長)

私事になるが、ゆめクラブ(老人クラブ)で高齢になった時に一番心配なことは何かというアンケートを実施した。アンケートの結果として、大きく3つ出た。1つ目は認知症になったらどうしよう、2つ目は体が不自由になったらどうしよう、3つ目はいつまでも慣れた家で過ごしたいけど周りで見守ってくれる人、親身になって支えてくれる人がいるだろうか、というものであった。色々な研修会があり、認知症について病院の院長の話や県が創設した「かながわオレンジ大使(認知症本人大使)」である、松浦オレンジ大使という、認知症になられた方の御夫婦の話を伺い、介護予防のリエイブルメントプログラム(短期集中予防サービス)が行われるということで、その話も伺った。伺って気がついたことは、高齢者になったら何もかもできなくて、周りから支えてもらうものだというイメージがあり、そのイメージを変えたのが、先ほど挙げた色々な研修会、学びの場、生涯学習の場であった。特に印象に残っているのは、松浦オレンジ大使の歌を歌い、色々な話をされたが、認知症になっても大丈夫だという勇気が湧いてきた。そういったことで、このあじさい大学も学ぶ機会というか、今までの年寄り意識というか、これか

ら自ら主体的に物事に取り組んでいく、リエイブルメントプログラムもそうであるが、主体的に取り組んでいくような、意識改革みたいなことが必要なのかと考える。講座案の中にも、例えば認知症についての医学的な基礎知識等を学ぶ機会や、パソコン・スマホ・LINEなどのSNSの活用を学ぶ機会はコミュニケーションを高めるために欠かせないことだと考える。また、これからの時代につながりを求めて、ということであれば、5ページには、令和7年度以降受講者アンケート等でニーズを把握後検討というふうな項目があるため、ICTの関係や家庭生活に役立つということで料理といったものも検討いただきたい。

(小林委員長)

学びの機会による意識改革についての意見であるが、講座案への反映についてはいかがか。

(事務局)

あじさい大学コースではないが市民大学の他講座でAIの活用や医療の知識についての講座を実施している。また、あじさい大学の時にはパソコンや料理の講座を実施していたと承知している。今回のあじさい大学コースの講座の検討に当たっては、介護予防・健康づくりという視点で、実際に体を動かすものだけでなく、そこに来ること、生きがいをつくるのが非常に重要な視点であると認識している。受講者のアンケートからニーズを把握した中で、今後講座の内容を検討していきたいと考えている。また、認知症講座として、市役所で認知症サポーターの養成講座を色々なところに出向いて実施しており、今後は実施事業との連携も含めて考えていきたい。

(小林委員長)

市民大学などの内容との整合性の中で検討していただきたいと考える。

(池田委員)

体を動かすことが全てではないと考える。先ほどの意見のとおり頭を使うことがやはり老化の防止だと考える。例えば、マージャンで、手を使って頭を使う。これはすごい予防になる。そのような視点も検討に際しては取り入れた方がよいと考える。あじさい大学では料理も、パソコンのWord、Excelの講座もあり、結構応募があった。それが今回は健康体操に特化されており、頭を使う何かを行えば老化がかなり防げるのではないかと考える。

(事務局)

御意見いただいた視点は、認知症予防には有効なことだと捉え、講座の内容を検討していきたい。

(小林(輝)委員)

あじさい大学のあり方であるが、示された講座の案について、皆さんの意

見を取り入れながら、きっかけづくりで次の学びへつなげていくという方針は良いと考える。実施する講座についても色々と実施する中でニーズを捉えながら試行錯誤するのがよいかと考える。また、開催の仕方も3区では通いづらいというような意見もあったが、アンケートの意見にあるハイブリッドという形等で講座に参加しやすくする工夫にも取り組むのが良いと考える。講座の検討はこのような形で進めていただければと思うが、次への学びにどのようなにつなげるかが課題だと考える。OBサークルに特化しそうであるが、公民館や総合学習センターでも色々なサークルが活動しているので、広く紹介してはどうか。また、サークルが高度過ぎて辞めてしまう人がいるという、アンマッチの話があるが、サークルの性格や何を目指しているのか、雰囲気といったところを情報提供できると、門を叩きやすいと考える。講座案でスポーツ系1講座、文化系2講座とあるが、全てを網羅するのは難しい。絵画をやりたい人は「当面開催がないから待っているか」というのも難しいので、あじさい大学のホームページか何かで、絵画をやりたい人の活動の場について積極的に周知を行うなども考えられる。次につなげることや、講座にないものをやりたい人への情報提供を広く考えていただきたい。

(小林委員長)

次につなげていく継続性の問題、あるいは活動サークル等の内容の問題といった、情報をしっかり流してほしいという意見であるが、事務局はいかがか。

(事務局)

情報提供の仕方は、これからの課題と認識している。まずきっかけをつくり、それで終わりではなくて、その次の活動につなげるためには、6回の講座をもってOBサークルを新設というのは難しいと感じるため、既存のサークルにどうつなぐか、公民館・生涯学習センター・地域の活動の情報を提供していくことで、市の3区で実施した内容が各地域に降りていくのではと考えている。何かいい方法があれば教えていただければありがたい。また、昨年、地域包括ケア推進部で作成したさがみナビといったインターネットを活用した地域活動のサイトを通じて、OBサークルも含め、地域での活動内容を情報提供していくことも考えている。

(堤委員)

小林(輝)委員と同じように、あじさい大学コースは初級を中心に、初めての方のきっかけづくりとして開催し、新たにやりたい方は御自分で上級に向けて調べて通われると考える。大野中地区では、地区社協、市民見協、公民館、老人クラブ等で色々なサークル活動を行っている。そこで認知症講座等も開催している。あじさい大学コースはきっかけづくりとして初歩の段階を

実施し、あまり最初から開催分野を増やさず、一年毎に結果を見ながら検討していくという方向性で良いと考える。

(長澤委員)

令和6年度の前期と後期の講義案内を見ると南区での開催が少ないように感じる。後期ではおださがプラザ1講座である。3区での開催は難しいとは思いますが、講義案内を見た南区の方から開催場所が遠いとの意見も伺うことがあるので、開催場所について検討いただきたい。また、あじさい大学コースの目的に最終的には地域に還元できるような人材の育成と記載があるが、OBサークルにつなげるにしても難しいと考える。現状はどのようなものなのか。

(事務局)

南区の会場が少ないという御意見に対しては、確かに受講者から同様の御意見をいただいている。講座の会場については、講座で偏らないよう、前年度が南区であれば、今年度は緑区か中央区というように3区でローテーションして開催するようにしている。ただし、年度によっては偏ってしまう場合もある。太極拳講師の江崎氏から相模大野での会場の開催も検討してほしいとの御意見をいただいております。南区の会場選定に当たっては、ユニコムプラザさがみはら、グリーンホールといった相模大野にある会場も検討していきたいと考えている。また、幅広い地域での開催を考え、本年度は試験的に、もみじホール城山で開催した。次に、OBサークルにつなげる現状については、あじさい大学コースの受講から、コーラスの講座は年に2、3人程度、健康体操は令和5年度に少なくとも1名の加入があったと記憶している。

(池田委員)

OBサークルは数が多く、内容も様々である。市ホームページでは60団体程度の掲載が確認できる。また、ポーノ相模大野について、学生対象で制約も多いが、もっと活用してほしいと考える。

(事務局)

相模大野にあるポーノ3階のユニコムプラザさがみはらのことでよいか。ユニコムプラザのセミナールームの利用を検討をしたこともあるが、これまでは次年度の講座検討を後期の受講状況を踏まえて行っていたため、人気な場所でもあり、確保できずにいた。ただし、今後は3年スパンで会場の検討を行うため、御意見の通り、ユニコムプラザも含めて考えたい。

(小林委員長)

8ページの講座案についての疑問点や御意見はいかがか。また、事務局から委員に意見を求めたい箇所はあるか。

(事務局)

1点、5ページの現講師・団体の御意見にある「講師により教え方も異なるため、ずっと同じ講師ではなく、偏りが出ないように変えた方がよい」との内容に御意見をいただきたい。

(堤委員)

講師を変えてくださいという意見ではなく、大野中地区では平岡先生がとても人気がある。地区内の自治会や老人会、公民館と様々な団体でお願いしている。様々な団体が同じように開催するため、参加者が偏ることもあり、募集定員に足りない事例が生じることもあるようだ。

(大神田副委員長)

老人クラブでゆめクラブ大学を開いており、非常に人気があって楽しい講師ではあるが、やはり何年も同じ方はどうかと考え、同じ協会に依頼し他の先生で対応いただいた事例もある。

(小林委員長)

大谷委員、公民館では講座開催に当たって講師と関係があると思うがいか

(大谷委員)

色々な講師がおり、人気のある方は、私が公民館長である間ずっと講師を務めていた。文化部で古典を学ぶといった講座であったが、文化部員の方がその方をお願いするということであれば、それはそれでよい。それぞれのグループの中で決めていけばよいと考える。また、小林(輝)委員のお話のとおり、以前、公民館でもコロナ時には体操関係をハイブリッド形式で実施した。何人もいないが大会議室で、沖縄にいる講師の方とオンラインでつなぐというものであった。今は色々な設備が整っており、様々な方法で開催できると考える。コロナがかなり下火になっているが、色々な方法で地域の方達が体操でも何でも参加できるような体制になるとよい。年齢が高い方が色々な場所に参加するのは難しい。公民館は、どこの公民館で何をやっているのか一冊になっているので、事務局が市内の公民館では何をやっているのかを調べてもらうのも参考になると考える。

(小林委員長)

小野委員、市スポーツ協会等で何か講師に関わる情報がありましたら、御披露いただきたい。

(小野委員)

スポーツの場合は競技なので、基本的には一人で教えるということではなく、複数人で教えるので、それほど偏りが出ることは想定されない。なお、講師の選定での配慮事項を伝えることはできると考える。

(池田委員)

市文化協会では、例えば、詩吟、民謡に講師依頼があると、協会で決めがあるわけではないが、それぞれの団体で大体3年単位で講師を変えていたことを参考までにお伝えする。

(2) その他

(小林委員長)

大体の意見は出尽くしたので、次の議題(2)その他について御発案いただきたい。

(大谷委員)

健康福祉局地域包括ケア推進部の予算について分かる範囲で教えてほしい。

(事務局)

あじさい大学コースを含めた市民大学全体の委託料の予算は1,771万3,000円。あじさい大学コースの予算は688万1,000円である。

(小林委員長)

本日、オブザーバで参加している3人の課長に一言いただきたい。

(オブザーバ：文化振興課長)

文化を所管する課として、令和7年度に向けて講座案では文化芸術に関する講座を設けられており大変喜ばしく思っている。実績を見ながら振り返って更新をしていただければよいと考えている。

(オブザーバ：生涯学習センター長)

市民大学を所管している課として、パソコン教室やSNS関係の講座開催について御意見があったが、生涯学習センターを会場にして開催しているものもあるため、必ずしも市民大学に全部を入れなくても良いのではないかと考えている。ただし、可能な限り工夫して情報提供をしていく必要があると認識している。

(オブザーバ：高齢・障害者支援課長)

私どもの所管では介護予防の事業を行っており、報告会や有識者の先生のお話によると、介護予防は、栄養、運動、社会参加という3つの言葉がキーワードになっている。栄養は主にタンパク質などを接種すること、運動は文字通りに体を動かすこと、中でも一番重要なのが社会参加ということで、自分の家に閉じこもらず、色々な場所に出かけて、色々な人と話をする、活動することであり、仕事を続けることでも構わないし、公民館の活動に出ることでも構わない。市民大学といった場に出かけて、色々な方と触れ合い、新たな仲間ができることがとても大事なことだと感じており、人生100年時代にまだまだ元気な長生きをされる方が生きがいとなるような事業が続けら

れたらよいと考える。

次回の検討委員会については、令和6年11月に開催することを伝え閉会。

市民大学「あじさい大学コース」検討委員会（令和6年度第2回）
出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小林 政美	社会教育委員会議 委員	委員長	出席
2	大神田 賢	相模原市老人クラブ連合会 会計	副委員長	出席
3	池田 直道	相模原市文化協会 会長		出席
4	大谷 政道	学識経験者 (元田名公民館長、元鹿島台小学校校長)		出席
5	小野 浩之	公益財団法人相模原市スポーツ協会 常務理事		出席
6	小林 輝明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会 常務理事		出席
7	堤 道子	相模原市民生員児童委員協議会 常任理事		出席
8	長澤 敬子	相模原市公民館連絡協議会 副会長		出席